
お嬢様の影武者さん!?

兎騎士

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お嬢様の影武者さん！？

【Nコード】

N3392BA

【作者名】

兔騎士

【あらすじ】

高校の入学と同時に親戚の家を出て一人暮らしを考えていた少年南部和久は新居を探すために街を彷徨っていた。すると、人違いによりメイド達に拉致されてしまった！？すごい豪華な屋敷に連れられ、人違いだと説得。色々あり、何とか誤解を解くのに成功。しかし、その家のお嬢様の天正寺香凜が病気により学校に通えなくなるという。そこでメイド長の加賀見沙耶に影武者になれと脅され、イヤヤ学校に通うことに……。って感じの話にしておく予定ですが、分かりにくくてゴメンナサイ。ゆっくりと更新して

ブローグ

Yシャツに腕を通し、一年生のシンボルカラーである緑のネクタイを締める。長い黒髪が邪魔とは思いつつ群青色のブレザーを羽織る。赤いチェックプリーツスカートを履き、等身大の鏡と向かい合う。

今日から通う学校は日本人なら一度は耳にするであろう名門中の名門。家柄や成績が良いエリートが厳しい審査を受け、ようやく入学試験に挑戦できるという狭き門である。当然服装の乱れなどは厳しく注意される。．．．．．と思う。

鏡の中で制服を着た女の子が微笑んでる。腰まで長い黒髪を纏めずそのまま下ろし、顔は中性的なお嬢様というよりは王子様な感じがする。肌はきめ細かく、手足はスラっとしている。

．．．．．綺麗だ。

「はっ！？オレは今何を．．．．．」

傍目から見れば綺麗な女の子が顔を赤くしたり青くしたりと大忙しである。

しかし実際は女装している男だったりする。
そこへ、

「着替えは終わりましたか？」

「加賀見さん．．．．．」

現れたのは紺色のメイド服に身を包んだ女性だった。赤色の髪を後ろで一つに纏め、フリルのついたヘッドドレスをかぶっている。

「……………見事にそっくりですね。私のように長い間仕えている者でなければ、まず分からないでしょうね」

加賀見と呼ばれた女性は少し驚いた顔をした後、いつもの無表情に戻った。

「オレは一体何をしているんだ……………」

そうつぶやき、窓から青空を眺めた。

プロローグ（後書き）

初投稿なので文の下手さはご容赦ください。自分で出来るだけ頑張っているのですばらく生温かい目で見守ってください。

不動産探索

今から約 一ヶ月前

親戚の家に居候させてもらってから早くも二年。親戚の家は年配の夫婦が二人で暮らしているごく普通の家庭だったが、決して裕福とはいえなかった。引き取られてから今までずっと申し訳ないと感じていた南部和久は高校の入学と同時に一人暮らしを始める考えを持っていた。

「一人暮らしと言えば衣食住か。最初は住だな。条件としては第一に家賃、建物の築年数はどうでもいいから………次は交通あたりか……」

ブツブツと呟きながら不動産を探す為に街を彷徨っている。和久は考え事を始めるとつい声に出してしまうのだ。不動産の場所など家から出る前に色々調べれば良いのだが、一刻も早く家を探したいのか、そこまで頭が回らなかった。

不動産を探し続けて約二時間。入り組んだ道を歩き続け、隠れた名店のようなものを考えていたが辺りには住宅ばかりで不動産どころか店一つ見つからない。

近くにベンチと自動販売機とベンチがあったので休憩がてらにミネラルウォーターを購入し、一息ついた。

「ふう………不動産が見つからないな。ここあたりにはないのか？」

このまま探し続けても埒があかないので、和久は周囲を見渡し、道行く人に訪ねることにした。

メイドの話（前書き）

自分の書いた小説を読んでみると、色々ひどいですね。涙が出てきます。そんな小説ですが今回もよろしくお願いします。

メイドの話

「加賀見さん！？お嬢様がまたいなくなりました！！」

赤い絨毯が敷かれた広い廊下にメイド服を着た二十代後半ぐらいの女性が慌てて叫んでいた。

「落ち着きなさい。それで、お嬢様も最後に見たのはいつ頃ですか？」

加賀見と呼ばれた女性は先程のメイドに比べて五歳ぐらい若く、赤い髪を後ろで一つに纏め、どこかの社長の秘書を思わせる雰囲気纏っている。

「先程、お嬢様の勉強中に紅茶のポットが空になりましたのでお代わりを入れにキッチンへ行っている間に何時の間にか……………」

9

「そうですか……………ではそう遠くへは行ってないでしょう。千風と七海は外の捜索に向かわせなさい。急ぎましょう」

そう言うと二人のメイドは玄関に向かって駆け出していった。

(お嬢様？あのお体で何処へ……………)

捕獲

「はぁ……………誰もいない……………」

あれから約一時間。人を探し続けて彷徨っていたが誰一人見つからず、また自動販売機の隣のベンチで座っていた。

「……………さつきから思ってたんだが、これは家なのか？」

和久が振り返ると、そこには巨大な塀がそびえ立っており横幅は終わりが見えなかった。

「いや、家というよりは西洋の城みたいな感じだ

「見つけた!!！」

横から突然叫び声が聞こえ、首をひねってみると、

メイドがいた。

コスプレなのか知らないがああいう格好で外に出掛けれる勇氣は凄いやな。

「見つけたよ？お嬢様？」

そう叫んでコッチに向かって走ってくるメイド。

「お嬢様？まさか人がいるのか！？」

期待を込めて後ろを振り返るが誰もいない。
そこには何もないただの道だけ。

（．．．．．あのメイドは幽霊でも見えているのか？いや、幽霊
とメイドなんてよくわからない組み合わせ

「捕まえた！！」

ゴスツ！！！！

背中に強い衝撃が走り、気付いたときには胸に手を回されガツチ
リロツクされていた。

「ようやく見つけた。さぁお嬢様。お屋敷に帰りましょう」

「はい？」

思いの他間抜けな声が出た。

捕獲（後書き）

眠い目をこすりながら書いたので文章はとてもしやバイと思います。それでも精一杯書いていますつもりなので、ガマンしていただけると幸いです。

説得

「あなたの言っている意味が分かりません」

後ろから抱きつかれて動きが取れない状態に困惑しながらも、何とか声を出すことができた。

「もう！誤魔化してもダメ！さっき連絡したから千風もすぐに来るからね！！」

見た目だけで判断するならば、中学生ぐらいの女の子だろうか。声も幼い感じがする。

「えっと・・・オレを誰かと間違えてないか？」

この状況を脱出するためには、この呪縛を解くしかない。よってここで説得を選択。

「間違えるはずないよ！！どっからどう見てもお嬢様にしか見えないよ！！」

背中に密着している状態でどうやって確認したのか教えて欲しい。

「説得は失敗か・・・そう言えば、さっき千風とかいう人が来るとか言ってたな。その人に誤解を解いてもらおうか・・・」

「お嬢様？何ブツブツ呟いてるの？まあ・・・いつものことか」

さて、一旦この状況を第三者の視点で見てもよう。

男の背中に女の子が密着。さっきからずっと離れようとしないうつてここにラブラブなカップルが誕生。

「は、恥ずかしい……………」

自分でも顔が赤くなるのが分かる。

「こんなのを他の人に目撃されたら、

「目撃されたら？」

「恥ずかしくてヤバイよ」

「お嬢様は案外純情なのですね」

「はい？」

本日二回目。

説得（後書き）

変な終わり方でゴメンなさい。どんどんカオスになっていく・・・
こんな稚拙な文章に付き合って下さってありがとうございます。

増えたメイド

「お嬢様。お屋敷に戻って勉強しましょう」

ニコツと擬音が聞こえるような笑顔で意味不明な言葉を発したのはまたメイド。先程の女の子と違って高校生ぐらいで物静かな雰囲気を出している。

「あなたもお嬢様と呼ぶのですか」

「？」

まるで言っている意味が分からないというような顔で見つめ返された。

「あのね千風。今お嬢様は他人のフリをしているんだよ」

「ああ、そうでしたか。これは失礼をいたしました。では・・・コホン。初めましてお嬢様。私の名前は天野千風と申します。以後お見知りおきを」

この娘は天然なのか？お嬢様と呼んでいる時点でアウトだろ。

「千風！！そんなのはいいから、早くお屋敷に行こうよ？」

そうだな。オレをおいてさっさと帰ってください。

「でもね、七海。私達はお嬢様の専属メイドなの。だからお嬢様のやりたい遊びには付き合っていないと」

「コレはどう考えても遊びじゃないよ？逃げたい為の口実だよ？」

「それぐらい私分かるよ。でも、お嬢様だってたまにはバカなことだってやりたいでしょ？」

この千風とかいうメイドは何気に酷いな。

「あなた達何を遊んでいるのです？」

「「加賀見さん!？」」

またメイドか……………

増えたメイド（後書き）

これは酷い。何が書きたいのか全く分からない。読んでる方ゴメンなさい。もう少し読みやすいように一生懸命書きます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3392ba/>

お嬢様の影武者さん!?

2012年1月14日23時53分発行